



加治川小だより

新発田市立加治川小学校 第2号
新発田市上今泉 366 番地 1 Tel. 33-2435
児童数 237 人 (R. 4.5.16 現在)

ホームページアドレス <http://kajikawa-e.shibata.ed.jp/>

あいさつで 自分も相手も幸せに

校長 丸山 久志

新年度を迎え、早くも1ヶ月が経ち新緑の季節5月を迎えました。芽吹く青葉のように子どもたちもすくすくと成長しています。

5月の全校朝会では命を守ることの大切さについて話をしました。地震や水害、台風などの自然災害から命を守るために防災があります。防災には国・県・市が行うもの、学校が行うもの、家庭が行うもの、地域で行うものがあります。

国県市では砂防ダムを造ったり、護岸を高くしたり、避難場所を設けたりしています。



学校での防災は避難訓練です。先日の避難訓練を振り返り、「何度も繰り返し行い、体で覚えること」と「先生の指示をしっかりと聞いて行動すること」「お・は・し・も（おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない）」について確認しました。また、「釜石の奇跡（東日本大震災の時に、岩手県釜石市では3つの学校が全壊しましたが、児童生徒は全員避難することができました）」を例に、「自分で判断して自分の命を守ること」の大切さと「周りの人と助け合って命を守ること」の大切さについて話しました。

家庭での防災は、いざという時、どこに避難するのか、避難場所の確認をしておくことの大切さや、非常持ち出し袋の確認等について話しました。

地域での防災では、地域の方が朝通学路に立ってくださっていることを例に、あいさつの大切さについて話をしました。あいさつをすると相手の顔が見えます。そして、相手もあなたの顔を見て、覚えてくれます。いざという時、あの子、あの人大丈夫かなと心配してくれます。あいさつは目に見えない大切な防災です。



近所の人や友だち同士、声かけやあいさつの輪を広げ、助け合う関係づくりを広めていきたいです。

あいさつができるということは、人や物に心が開いた状態にあり、先生や地域の方から素直に教を乞うことができます。

加治川小学校に限らず、どの学校でも「あいさつのできる子」を育てています。明るいあいさつを交わることが学校教育の土壌となっていると確信しているからです。この豊かな土壌があつてこそ、思いやりや親切などの心を育む活動や学力向上などの活動が花を咲かせ実を結ぶからです。言わば、あいさつは学校のバロメーターでもあります。

今、加治川小学校では児童会主催のあいさつ運動を行っています。1年生の子どもたちが、はりきってあいさつし、楽しそうにシールを貼っています。上級生もその様子を温かく見守っています。全校のあいさつは、やがて色とりどりに輝く大きな虹となります。

あいさつが「相手への感謝と敬意の気持ちとが言葉を通して相手に伝わり、社会生活を営む上で大切な潤滑油の役割を果たしていること」や「相手や自分自身を元気付け、一日の生活に張りを与えていること」など、実践を通して発達段階に応じて理解させていきたいと考えています。